

九州生乳販連会報



TOPICS

第24回通常総会を開催	1
令和4年度事業報告	2
令和4年度生乳品質共励会について	9
酪農情勢報告	11
8月以降 牛乳・ヨーグルトの再値上げ!	12
加工原料乳生産者経営安定対策事業に係るお知らせ	12
令和5年度販売状況について	13
令和4年度乳用牛繁殖改善事業の実績について	13
令和5年度会員別生乳受託販売数量/令和5年度月別受託生乳検査成績/人事異動	14
牛群検定における脂肪酸組成のデータを活用しましょう!	15
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告	16
新聞広告を掲載しました	18
R5年度牛乳・バター利用拡大推進運動について	19
令和5年度酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーターを募集します!	20

第24回通常総会を開催

去る7月25日、福岡市内のホテルにて第24回通常総会を開催しました。ご来賓として農林水産省・九州農政局を始め、(一社)中央酪農会議・(一社)Jミルク・九州管内県庁畜産課・全農・全酪連よりご臨席を賜り、代表して農林水産省牛乳乳製品課 須永新平課長(代読:齊藤秀幸係長)、中央酪農会議 菊池淳志専務理事よりご祝辞をいただきました。

令和5年度の事業計画につきましては、去る3月30日開催の臨時総会において承認を得ていますので、本総会においては下記の3議案が上程され、全て原案どおり承認されました。

第1号議案

令和4年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書及び剰余金処分案の承認について



中村会長



齊藤係長



菊池専務



大川議長

第2号議案

役員補欠選任について

第3号議案

役員退職慰労金の支給について(案)

この結果、本会の役員体制は下記のとおりとなりました。

役員名簿

代表理事会長	中村隆馬
代表理事副会長	清末健一
代表理事常務	稗島喜美男
理事	中島清 (新任)
理事	佐々木慎一 (新任)
理事	大川清治
理事	平島善範
理事	有村洋平 (新任)
代表監事	小野幾郎
監事	西史明
監事	立山行広

退任役員

理事	草場哲治
理事	大島信之
理事	轟木孝一



中島理事



佐々木理事



有村理事

令和4年度事業報告

一般概況(抜粋)

酪農においては改正畜安法の施行より、九州においても生産した生乳の一部分を系統外へ販売する事例は発生しています。生乳需給においては、新型コロナ禍の発生当初よりインバウンドや業務用の牛乳乳製品需要が落ち込んだことによる需給緩和は継続しています。脱脂粉乳・バターの在庫が積み増しになり過去最高水準となりましたが、酪農乳業界を挙げて生乳生産の抑制、乳製品在庫削減対策に取り組んだことにより、年度末の乳製品在庫は減少しました。このような中、生乳生産コストはドル為替の円安や世界的な燃料・原材料価格の高騰により上昇し、高止まりしたままとなっており、かつて経験したことがないほど酪農家は非常に厳しい経営環境にあります。

4年度の販売乳価は前年度と比較して3,422円/kg上回りました。生乳生産コストの高止まりを受けて乳価交渉に取り組み、11月分から飲用向けとはつ酵乳等向けの取引価格が10円値上げとなったこと、また用途別販売においては飲用化の推進や生乳生産抑制により脱粉・バター向けが減少したことが引き上げの要因になります。

生乳生産量については生乳需給改善のための生産抑制下ということもあり575,374t(計画比96.2%、前年比95.3%)と計画・前年ともに下回りました。九州においては早い段階から生産抑制に取り組んだことによりかなりの効果が現れました。その一方で酪農戸数については厳しい経営環境から例年のほぼ倍のペースで減少し、79戸が離農廃業となりました。

今後も酪農家から必要とされる組織となるように、生乳販売においては飲用化の推進、用途別販売数量の管理、経費削減による乳価の向上、理解醸成・消費拡大においては消費者への酪農と牛乳・乳製品の重要性の訴求、生乳検査においては検査精度の維持と酪農経営に役立つ検査を実施することに引き続き努めてまいります。

1. 生乳受託販売数量

「3年間(令和3年度～令和5年度)は、前年実績以上を目標数量として設定する」第4期中期対策の2年目として、令和4年度生乳需給安定化対策実施要領に基づき、各会員を通じて生産者ごとの計画数量を取りまとめた生乳委託計画の数量607,079,408kg(前年比100.6%)をそのまま生乳出荷目標数量としました。

このような中、生乳受託販売数量は7月まで97%程度で

推移し、8月は暑熱ストレス、9月には台風の影響を受けて前年との差が5%以上に広がり、下期も同様の推移となりました。この要因は、飼料や生産資材価格の高騰、コロナ禍による需給緩和・乳製品在庫過剰問題への対応のために中央酪農会議が行う酪農経営改善・需給均衡対策事業で生産抑制の取り組みが行われたことによります。

結果として、上期は291,292t(計画比97.6%、前年比96.6%)、下期は284,082t(計画比94.8%、前年比94.0%)、年度計では575,374t(計画比96.2%、前年比95.3%)と計画・前年の数量をともに下回る実績となりました。(表1)

表1 月別生乳受託販売数量実績 (単位:計画t、実績kg、%)

月	事業計画	実績	計画比	前年比
4	54,000	52,758,028	97.7	97.8
5	54,600	53,345,057	97.7	97.9
6	50,100	49,307,916	98.4	98.3
7	47,800	47,377,983	99.1	97.9
8	46,100	44,527,784	96.6	93.1
9	45,800	43,975,363	96.0	94.3
上期計	298,400	291,292,131	97.6	96.6
10	48,200	46,360,134	96.2	94.8
11	47,300	45,385,001	96.0	93.9
12	50,100	47,439,681	94.7	93.5
1	51,300	48,428,294	94.4	93.6
2	48,000	45,081,817	93.9	94.0
3	54,700	51,387,150	93.9	94.1
下期計	299,600	284,082,077	94.8	94.0
年度計	598,000	575,374,208	96.2	95.3

2. 生乳販売

生乳販売においては、新型コロナウイルス感染症の影響に加えて、物価高も影響し、牛乳・乳製品の消費は前年同様低調な動きとなりました。

域内飲用向け、学給向けは前年並みを維持したものの、域外向けは生乳受託販売数量の減少に伴う需給調整により前年を大きく下回ったため、飲用牛乳等向けの合計は407,589t(計画比98.4%、前年比95.8%)と計画・前年の数量を下回りました。はつ酵乳等向けは概ね前年並みで推移し、84,088t(計画比96.7%、前年比99.7%)となりました。脱脂粉乳・バター等向けは、域外

表2-1 用途別販売実績 (単位:計画t、実績kg、%)

用 途		計 画	実 績	計画比	前年比	構成比
	域内飲用	285,500	290,395,102.2	101.7	99.2	50.5
	学 給	41,000	39,979,333.8	97.5	99.3	6.9
	域外飲用	87,900	77,215,060.0	87.8	83.5	13.4
飲 用 牛 乳 等 向 け 計		414,400	407,589,496.0	98.4	95.8	70.8
は っ 酵 乳 等 向 け		87,000	84,088,293.0	96.7	99.7	14.6
脱脂粉乳・バター等向け		66,600	53,881,660.0	80.9	83.9	9.4
ク リ ー ム 等 向 け		28,860	28,679,646.0	99.4	100.8	5.0
チ ー ズ 向 け		1,140	1,135,113.0	99.6	99.9	0.2
計		598,000	575,374,208.0	96.2	95.3	100.0

飲用向け同様、生乳受託販売数量の減少に伴う需給調整により53,882t(計画比80.9%、前年比83.9%)と計画・前年の数量を大きく下回りました。クリーム等向けは28,680t(計画比99.4%、前年比100.8%)、チーズ向けは1,135t(計画比99.6%、前年比99.9%)とほぼ計画・前年並みで推移しました。(表2-1)

販売先を地域別に見ると、九州域内487,066t(前年比97.5%)、中国地区9,149t(前年比82.3%)、四国地区0t(前年は34t)、関西その他地区79,159t(前年比84.9%)の実績となりました。(表2-2)

表2-2 地域別販売実績 (単位:kg、%)

地域別	実 績	前年比	構成比
九 州	487,065,847	97.5	84.7
中 国	9,148,972	82.3	1.6
四 国	0	0.0	0.0
関西その他	79,159,389	84.9	13.8
計	575,374,208	95.3	100.0

3. 生乳販売価格・販売費用

生乳販売価格は、飼料価格の高騰を始めとして酪農情勢が厳しさを増す中、乳業メーカーとの乳価交渉を進め、令和4年11月には飲用向け(学給向けは一部)およびはっ酵乳等向けの乳価が1kgあたり10円値上げとなる期中改

定が行われました。この結果、プール対象生乳代金は前年+3.459円/kg、成分加算金を加えて前年+3.407円/kgとなりました。

販売費用については、燃料価格や人件費等の高騰を背景として令和4年11月から各集送乳事業者の集送乳業務委託料金の値上げを行ったため、生乳受託販売数量が減少した中でも集乳経費は前年より増加しましたが、送乳経費は前述のとおり域外向けの販売数量が減少したため前年より減少しました。この他、CS冷却費等は概ね前年並みとなった結果、費用総額は前年△0.015円/kgとなりました。

生乳販売代金(プール対象生乳代金+成分加算金)から販売費用を差し引いた支払乳価は、前年+3.422円/kgとなりました。(表3)

4. 乳代精算

生乳販売代金については、各月に販売して得たプール対象生乳代金に季節別乳価実施要領で定める各月の季節別乳価調整率(92~114%)を乗じた季節別調整後金額を会員ごとの乳量であん分して精算しました。

成分加算金については、乳業者からの受取成分加算金を各会員の成分基準値上回り量に応じてあん分しました。

販売費用については、販売手数料(生乳受託販売代金(基本乳代+成分加算金)の0.3%)・生乳検査料(販売数量に0.12円/kgを乗じた金額)・送乳経費(実費)・CS

表3 販売乳価及び費用の比較 ※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

年 度		令和4年度		令和3年度	差
乳 量		575,374 t		603,724 t	△28,349 t
プ ー ル 対 象 生 乳 代 金	金額	65,040,763千円		66,157,261千円	△1,116,498千円
	単価	113.041円		109.582円	3.459円
成 分 加 算 金	金額	1,056,106千円		1,139,432千円	△83,326千円
	単価	1.836円		1.887円	△0.051円
生 乳 代 金 計	金額	66,096,869千円		67,296,693千円	△1,199,824千円
	単価	114.876円		111.469円	3.407円
販 売 費 用	金額	4,421,269千円		4,648,346千円	△227,077千円
	単価	7.684円		7.699円	△0.015円
支 払 乳 価	金額	61,675,600千円		62,648,347千円	△972,747千円
	単価	107.192円		103.770円	3.422円

冷却費(実費)・集乳経費(実費)をそれぞれ会員ごとの乳量であん分して乳代から控除しました。

月ごとの調整により発生した季節別調整額の残高と借越しの金利負担額は6～11月の乳量であん分し、3月分生乳代金と同時に精算しました。(表4)

5. 加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金

令和4年度畜産物価格において、加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金の総交付対象数量は345万トン(前年±0t)、補給金単価は8.26円/kg(前年±0円/kg)、集送乳調整金単価は2.59円/kg(前年±0円/kg)、合計10.85円/kg(前年±0円/kg)とすべて前年度と同水準となりました。

本会の交付対象数量は、全国の各事業者が農林水産省に提出した令和4年度年間販売計画の特定乳製品向け(脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向けの合計)数量が総交付対象数量を約3.4%超過したことから、申請数量に対し約3.4%の調整がなされ、95,459,500kgとなりました。

加工原料乳認定数量は82,484,279kgとなり交付対象数量を下回ったため、認定数量全量に対して補給金および集送乳調整金が交付されました。一方、他ブロックにおいては交付対象数量を超過したブロックがあったため、農林水産省によって年度終了後に数量が変更され、最終的に82,484,300kgとなりました。

これらを踏まえ、各生産者に対しては生産者補給交付金681,320,142円、集送乳調整金213,634,280円、総額894,954,422円を四半期ごとに(ただし、第2四半期分は第4四半期と同時に支払い。)会員を通じて支払いしました。なお、受託乳量1kgあたりの単価は、生乳受託販売数量の減少以上に特定乳製品向けが減少したことにより、

生産者補給金が1.193円/kg(前年△0.047円/kg)、集送乳調整金が0.374円/kg(前年△0.015円/kg)と前年度を下回りました。(表5)

表5 加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金について

項 目	数 量
交付対象数量	82,484,300kg
認定数量	82,484,279kg
補給金交付数量	82,484,279kg

項 目	単 価	金 額
生産者補給金	8.26円/kg	681,320,142円
集送乳調整金	2.59円/kg	213,634,280円
合計	10.85円/kg	894,954,422円

6. 乳用牛繁殖改善事業

PAGs(乳汁中妊娠関連糖蛋白質)検査への助成を令和2年度から継続して実施しています。今年度は、本会検査所および会員施設にPAGs検査を依頼した場合、1検体あたり300円(税抜)、夏場の受胎率向上を目的に6月から11月の期間は100円増額し、1検体400円(税抜)の助成を実施しました。補助対象検体数は5,228本(前年比88.7%)、補助総額は1,835,200円となりました。

7. 酪農理解醸成及び牛乳消費拡大対策事業

(1)会員実施分 事業総額30,000千円

各会員が実施した酪農理解醸成活動、牛乳消費拡大運動への助成を行いました。また、酪農が生活者にとってより身近なものとなるよう、「ファン獲得運動」としてFacebookを活用し、各会員から報告された地域のイベントや生産現場の記事や写真を生活者へ向けて発信しました。

表4 生乳代金の精算

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

月	プール対象 生乳代金 (千円)	季節別 調整率 (%)	季節別 調整後金額 (千円)	成分加算金 (千円)	販売費用 (千円)	支払乳代 (千円)	季節別 調整額 (千円)	累計季節別 調整額 (千円)
4	5,670,530	94	5,330,298	98,318	404,197	5,024,419	340,232	340,232
5	5,836,900	94	5,486,686	93,207	414,171	5,165,722	350,214	690,445
6	5,539,372	100	5,539,372	80,387	386,868	5,232,891	0	690,445
7	5,269,824	110	5,796,806	62,986	354,394	5,505,398	△526,982	163,462
8	4,930,031	111	5,472,334	53,302	335,995	5,189,642	△542,303	△378,841
9	4,978,343	114	5,675,311	62,433	323,333	5,414,411	△696,968	△1,075,809
10	5,202,941	105	5,463,088	83,103	343,221	5,202,970	△260,147	△1,335,955
11	5,429,914	100	5,429,914	91,697	354,839	5,166,772	0	△1,335,955
12	5,406,777	93	5,028,303	110,753	364,585	4,774,471	378,474	△957,481
1	5,612,097	92	5,163,130	114,105	376,000	4,901,234	448,968	△508,513
2	5,287,679	92	4,864,665	100,521	359,276	4,605,910	423,014	△85,499
3	5,876,356	92	5,406,247	105,294	404,391	5,107,151	470,108	384,610
計	65,040,763		64,656,153	1,056,106	4,421,269	61,290,990	384,610	

(2) 本会実施分 事業総額38,399千円

新型コロナウイルス感染症の脅威が少しずつ弱まる中、インターネット中心の取組から実際に生活者と対面で行う取組への移行を模索しながら展開しました。

新聞を使った酪農理解醸成活動としては、8月27日と10月29日に「毎日、コップ一杯の牛乳を、飲んでください。」をメインコピーに広告を掲出しました。長引くコロナ禍での牛乳消費の慢性的な落ち込みや、円安や国際情勢による飼料代の高騰という深刻な状況下でも安全安心な生乳生産に取り組んでいる生産者の率直な声を織り交ぜ、継続的な牛乳消費を呼びかけました。

6月の「牛乳月間」では、6月4日に3年ぶりとなる「九州Love Milk Club presents FM Fukuokaハッピーミルクフェスタ2022」を開催しました。

不需要期の牛乳消費拡大の施策としては、11～3月にかけて牛乳・バター利用拡大推進運動を実施し、酪農家自らが牛乳・乳製品の消費拡大運動を率先して行い生活者に向けて広く消費拡大の必要性和協力と呼びかけました。また、九州7県のフードバンクに会員と連携してLL牛乳約48千本を無償提供する取り組みを行った他、4月1日に博多駅前広場にてイベント「『も～っ』と知ってくだ祭!春の酪農・牛乳フェスティバルin九州」を実施しました。

(3) 牛乳定着化事業

事業総額26,477千円(中央酪農会議助成金)

中央酪農会議の事業を活用し、酪農理解醸成・牛乳消費拡大活動を実施しました。インターネット・SNSを活用した取り組みとしては、「#牛乳ヒゲチャレンジ第3弾」、「みんな知ってる? ミルククイズキャンペーン」、「牛牛っと時短九州ミルクレシピキャンペーン」、「牛乳川柳コンテスト」を実施しました。また、九州の酪農・牛乳のPRを図るため、11月にイベント「ハッピーミルクフェスタin熊本」を、牛乳購買の促進のため、12～1月にイオン九州・系列店の各店舗で「ミルクde応援キャンペーン2022-2023」を実施しました。

(4) 酪農教育ファーム事業 事業総額1,987千円

(中央酪農会議助成金1,807千円、自己負担180千円)

生活者や教育関係者を対象とする酪農体験を通じた酪農教育ファームは新型コロナウイルス感染防止対策を講じつつ対面での活動を再開しました。

8月に熊本県立熊本農業高等学校にて熊本市内の教師とその家族(8名)を対象に酪農体験学習会及び現地会議を行いました。教師が実際に体験することで酪農体験を通じた学習に興味を持ってもらい、学校で子どもたちに体験を実施してもらうきっかけをつくる良い機会となりました。また、子どもたちが酪農体験後に振り返ることができ、より酪農に関心が持てるような教材作成に取り組みました。

新規認証については、認証牧場1戸とファシリテーター3名が新規認証を取得しました。認証牧場の取得のための現地審査は会員の協力の下、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じた上で牧場の安全性や衛生面の確認を行いました。

年度末の認証牧場とファシリテーター数は表7-1、事業費の内訳は7-2のとおりです。

表7-1 (単位 認証牧場:戸、ファシリテーター:人)

	認証牧場	ファシリテーター
福岡	5	11
佐賀	3	3
長崎	1	1
熊本	7	13
大分	4	12
宮崎	8	13
鹿児島	3	5
計	31	58

表7-2 (単位:千円)

事業	内 訳		実績
	委託費	実施者負担	
九州地区推進委員会	222	10	232
スキルアップ研修会旅費補助	18	0	18
新規認証牧場現地審査	23	0	23
教員対象酪農体験学習会	204	0	204
酪農体験学習会(費用上限1/2)	170	170	340
資材の購入	10	0	10
事業推進費	1,160	0	1,160
合計	1,807	180	1,987

8. 生乳検査事業

(1) 生乳検査成績

各検査項目(脂肪分率・蛋白質分率・乳糖分率・無脂乳固形分率・遊離脂肪酸・氷点・乳中尿素・体細胞数・細菌数)の受託に係る配分検査を生産者バルククーラー単位に月2回、年24回実施しました。

乳質検査結果は年間加重平均で脂肪分率3.94%(昨年度3.92%)・無脂乳固形分率8.81%(昨年度8.83%)となり、直近の5年間では乳脂肪は最も高く、無脂乳固形は例年並みとなりました。

体細胞数については21.0万/mlと昨年度(20.7万/ml)より微増ですが、過去5年間で見ると同じ水準にあります。8月の猛暑と長引く残暑により、搾乳牛にかかるストレスが増大しましたが、生産者の適切な飼養管理により高品質な生乳が生産されました。

細菌数の平均値は2.4万/mlとなり前年度(2.5万/ml)より減少し、高いレベルでの衛生的乳質を維持しました。これを前年度のペナルティバルクの発生率と比較すると3年度0.4%・4年度0.3%となり0.1%の減少と小幅ですが改善しています。また、ペナルティ乳量の

発生率は3年度0.2%・4年度0.1%で前年度より0.1%減少しています。

氷点の検査は、改善が必要な生産者について会員への報告と指導を要請しました。基準外のパルククーラーの割合については飼料高騰による給餌飼料の切り替え時に無脂乳固形分の一時的低下の影響で4年度は1.01%となり3年度0.44%より増加しました。

また、新しい項目で脂肪酸組成(デノボFA、デノボMilk、プレフォームFA)の検査を開始し、検査所機能の充実に努めました。

過去5年間の乳質等の推移は表8-1のとおりです。

表8-1

年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度
脂肪分率	3.88%	3.88%	3.90%	3.92%	3.94%
無脂乳固形分率	8.78%	8.78%	8.82%	8.83%	8.81%
全固形分率	12.66%	12.66%	12.72%	12.75%	12.75%
体細胞数	21.3万	22.1万	21.5万	20.7万	21.0万
細菌数	2.9万	2.8万	3.1万	2.5万	2.4万
氷点-0.510℃を超えるパルクの比率	0.60%	0.93%	0.71%	0.44%	1.01%

(2) 生乳検査本数

配分検査は酪農家戸数の減少により前年比94.9%。乳用牛群検定検査は酪農経営改善・需給均衡対策事業により飼養頭数が減少し、前年比95.8%となりました。生乳取引検査は前年比95.8%、生産者指導のための指導検査は前年比103.9%、依頼検査は前年比83.8%、PAGs検査は前年比97.9%となり、検査総本数実績は計画比96.1%、前年比95.6%となりました。

乳用牛群検定検査については本年度も九州7県すべてで実施しました。また、乳業者との成分取引に係る検査については福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島について実施し、乳代請求に利用されました。

依頼検査は生産者からの依頼に応じて、指導検査は会員等からの依頼に応じて実施しました。

検査内容と実績本数については表8-2、検査種・機器別の検査本数は表8-3のとおりです。

表8-2

(単位:本)

内容	年間計画	R4年実績	R3年実績	計画比	前年比
配分細菌検査	27,439	26,907	28,340	98.1%	94.9%
配分成分検査	27,439	26,907	28,340	98.1%	94.9%
配分再検査	1,280	1,183	1,170	92.4%	101.1%
牛群検定検査	960,380	924,418	964,841	96.3%	95.8%
取引検査	47,300	46,059	48,064	97.4%	95.8%
指導検査	7,000	6,976	6,712	99.7%	103.9%
依頼検査	21,475	16,862	20,121	78.5%	83.8%
PAGs検査	5,030	4,939	5,043	98.2%	97.9%
総検査本数	1,097,343	1,054,251	1,102,631	96.1%	95.6%

表8-3

上段:本数 下段:前年比

検査種別	コンビフォス	バクトスキャン	PAGs検査
配分検査	26,907 94.9%	26,907 94.9%	— —
牛群検定検査	924,418 95.8%	— —	— —
依頼検査	14,963 84.1%	1,899 81.2%	4,939 97.9%
取引検査	46,059 95.8%	— —	— —
配分再検査	1,158 104.1%	25 43.1%	— —
指導検査	5,601 104.0%	1,375 103.7%	— —
合計	1,019,106 95.6%	30,206 94.2%	4,939 97.9%

(3) 生乳検査料金

検査料金は受託乳量に対し0.12円/kgを徴収しました。その他の検査料金は乳用牛群検定45円/本、依頼検査は成分・体細胞で100円/本、細菌検査300円/本、PAGs検査800円/本です。

抗菌性物質検査用ディスクシャーレについては、100円/枚でふくおか県酪農協・長崎県酪連・大分県酪農協に継続して供給しました。

(4) 検査精度

本会は精度管理認証制度において、「検査部門」(乳脂肪分率・無脂乳固形分率・体細胞数)及び「検体採取部門」について認証を受け、年4回実施された外部精度管理に参加しました。結果は全ての項目において許容範囲内の精度を維持しました。3月末時点での全国の検査施設における認証取得状況は表8-4のとおりです。

機器の整備については、修理コストの削減と効率的な検査の実施のため、機器のメンテナンスを熟知した技術職員の養成に努めました。また、検査機器の精度の維持、管理のため自主点検及び整備を定期的に行いました。

表8-4 認証検査機関の分類

分類・地域	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	計
指定団体系	2		1	1	1	1	1	1	1	9
大手商系		4	8		1	8		1	3	25
中小商系			2			1	1			4
農ブラ	1		1		1					3
計	3	4	12	1	3	10	2	2	4	41

(5) 検査技術の普及

会員CS職員等の生乳に関する基礎知識の習得、検査技術の確認と向上を図るため、生乳検査技術研修会を令和4年度は5、8、10月で3回開催し、組合・CS等

の職員の他、検査関連の職員、農プラ系乳業の品質管理担当職員など17名の参加がありました。なお、講師は本会生乳検査所職員が行い職員の資質向上の機会と知識の習得にも寄与しました。

(6)集送乳担当者研修会

集送乳乗務員に対する研修会を2会員に延べ3回実施しました。その他に会員が開催する乳質改善の講習会に職員を派遣し、正確な検体採取と乳質の劣化防止、生乳の風味に関する講習会を行いました。

(7)生乳の安全・安心の確保

生乳の安全・安心の確保のための九州協議会は、行政や各種指導機関、乳業者と乳業者団体、生乳生産に関連する業者を会員としており、新型コロナの感染防止のため7月にWEBで、また会員の安全・安心担当者会議もWEBで開催しました。

チェックリストの記帳率100%を達成するため「出荷伝票方式」になり10年が経過しましたが、多くの項目において記帳が出来ていない酪農家はなくなり、巡回検証において6項目全て×の農家数はゼロを維持しました。

各会員が行った重点記帳項目等の巡回検証結果は表8-5のとおりです。

表8-5 重点記帳項目等の記帳状況

6項目全て○の農家	○又は×が混在する農家	6項目全て×の農家
1,071戸	43戸	0戸

Jミルクが実施するポジティブリストに係る管理対象物質検査16物質（農薬6物質、動物用医薬品4物質、殺菌用消毒剤・殺虫剤6物質）の結果は、全てのサンプルで基準値以下でした。

また、搾乳関連場所以外でDDACとパコマの使用実態があるため、生産者へ注意喚起を行い搾乳器具の殺菌は次亜塩素酸ナトリウムに統一した指導を継続して行いました。

発がん性を持つカビ毒アフラトキシンM1の生乳中への残留規制も平成27年7月に始まり残留の防止について、その啓蒙・周知を図りました。Jミルクの依頼により生乳中のアフラトキシンM1検査を1月に2検体（全国13検体）実施し、全てのサンプルで「陰性」となりました。

一方、規格外生乳の廃棄事故は76件・367トン廃棄（前年65件・354トン）発生し、前年より件数・廃棄乳量ともに増加しました。発生原因別で最も多いのは抗生物質陽性で、27件・156t（前年15件・79t）と大きく増加し、原因別割合の36%を占めました。発生要因は治療牛の勘違い等による誤搾乳、家族・従業員間での連携ミスとなっています。次いで多いのは異物混入による廃棄で、件数23件・94t（前年24件・113t）発生

し全体の30%を占めました。発生要因は、黒色斑点・環境性ゴミの混入が主な原因でした。多くの規格外生乳廃棄は人為的ミス、搾乳施設の点検漏れなど事前に確認すれば未然に防止できるものでした。対策として廃棄事故発生の際には詳細を報告してもらい原因を究明し、会員へ情報提供することで廃棄乳削減の周知徹底を図りました。

(8)生乳品質共励会の開催

令和4年度生乳品質共励会を令和4年4月1日～令和5年3月31日の対象期間で開催しました。その結果、審査対象農家は1,096戸（大学校、高等学校を含む）で、最高得点は1,187点・平均点は891点（前年比－15点）となりました。上位入賞者は、最優秀賞が第1部 山口直敏氏1,160点（長崎県）・第2部 松永慎也氏1,187点（福岡県）・第3部 竹内正敏氏1,174点（大分県）となり、その他 優秀賞31名・優良賞（1,000点以上）199名（前年272名）・連続優秀賞（令和2年～4年）12名の生産者が受賞されました。

9. 補助事業

本年度は以下の補助事業を行いました。

(1)生乳生産者需要確保事業	15,454,545円
(2)国産チーズ生産奨励事業	566,152円
(3)加工原料乳生産者経営安定対策事業	206,318,037円

10. 酪農経営改善・需給均衡対策事業

飼料や生産資材の高騰による生乳生産コストの上昇、積み増す乳製品在庫、処理不可能乳発生等への対応として中央酪農会議が実施した事業で、低能力牛を早期に更新する取り組みに対して1頭当たり5万円の助成が行われました。取り組み戸数500戸、対象頭数1,655頭となり、82,750,000円が助成されました。

11. 酪農乳業産業基盤強化特別対策事業

（一社）Jミルクが実施した2022年度酪農乳業産業基盤強化特別対策事業のうち、酪農生産基盤強化総合対策事業を活用した会員に対し、5,484,934円が助成されました。

12. 総務部門

(1)内部留保の充実

乳製品在庫調整対策事業及び酪農経営改善・需給均衡対策事業について、生産者の負担を軽減するため、下記の通り目的積立金の取り崩しを行い拠出金の一部に充当しました。

① 5月31日付取り崩し

経営健全化積立金200,000千円を全額取り崩して下記の賦課金に充当しました。

- ・乳製品在庫調整対策事業賦課金
(179,231千円 受託乳量1kg当たり0.314円)
- ・酪農経営改善・需給均衡対策事業賦課金
(20,769千円 受託乳量1kg当たり0.036円)

② 12月31日付取り崩し

検査機器積立金の一部70,000千円を取り崩して下記の賦課金に充当しました。

- ・酪農経営改善・需給均衡対策事業賦課金
(61,639千円 受託乳量1kg当たり0.108円)
- ・乳製品在庫調整対策事業賦課金
(8,361千円 受託乳量1kg当たり0.015円)

一方、前年度剰余金については目的積立金(乳代精算システム合理化積立)31,000千円を積み立てることとし、内部留保による自己資本の回復を図りました。

(2) 効率的な資金管理

生乳代金の遅延未収金はありません。借入利息については金融機関と協議して利息の軽減を図りました。

(3) 新型コロナウイルス感染症への対応

前年度に引き続き、オンライン会議・オンライン研修会に向けた環境整備を進めました。また、感染状況が刻々と変化する中で、現地出席者とオンライン出席者が混在するハイブリッド形式の会議についても意欲的に取り組みました。

職場内感染の防止については、前年度に引き続き、間仕切りや在宅勤務による職場内接触の低減、検温による健康管理と発熱者への受診奨励、マスク着用の徹底、手洗い・消毒の励行などの取り組みを行いました。

(4) インボイス制度への対応

令和5年10月から実施されるインボイス制度への対応のため、情報収集や関係先との協議を進めました。

(5) コンプライアンス計画の推進

コンプライアンス遵守の意識付けのため、セルフチェックを実施するとともにフィードバックのための面談を行いました。

コンプライアンスに係る役員研修会を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大によりスケジュールの都合がつかず未実施となりました。

(6) 情報の提供

年4回「九州生乳販連会報」を発行し、会員、酪農家及び関係団体へ生乳生産状況・販売状況・酪農を取り巻く環境の動向・酪農理解醸成及び牛乳消費拡大対策事業の周知など情報の提供を行いました。

貸借対照表

第24年度(令和5年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	8,246,571	流動負債	7,901,437
1. 預金	440,961	1. 事業未払金	7,797,535
2. 事業未収金	7,859,246	2. リース債務	8,813
3. 雑資産	9,468	3. 雑負債	88,960
4. 貸倒引当金	△ 63,105	4. 賞与引当金	6,130
固定資産	130,189	固定負債	39,984
1. 有形固定資産	31,404	負債の部合計	7,941,422
2. 無形固定資産	0	出資金	70,000
3. 外部出資その他の資産	98,785	利益準備金	140,000
		特別積立金	10,000
		目的積立金	131,000
		繰越利益剰余金	84,338
		純資産の部合計	435,338
資産の部合計	8,376,760	負債・純資産の部合計	8,376,760

損益計算書

第24年度(令和4年4月1日より令和5年3月31日まで)

(単位:千円)

科目	金額
1 事業総利益	△ 11,256
(1) 販売事業収益	4,422,747
(2) 販売事業費用	4,527,232
販売事業総利益	△ 104,485
(3) 検査事業収益	119,445
(4) 検査事業費用	26,216
検査事業総利益	93,229
2 事業管理費	188,082
事業利益	△ 199,338
3 事業外収益	948,673
4 事業外費用	943,480
経常利益	△ 194,145
5 特別利益	0
6 特別損失	0
税引前当期純利益	△ 194,145
法人税等合計	417
当期純利益	△ 194,562
繰越利益剰余金期首残高	8,900
積立金取崩額合計	270,000
繰越利益剰余金期末残高	84,338

令和4年度生乳品質共励会について

去る7月25日、福岡市内のホテルにて令和4年度生乳品質共励会表彰式を開催いたしました。
最優秀賞受賞者はこちらの方々です。



下段左より 第1部 山口直敏さん、第2部 松永慎也さん、第3部 竹内正敏さん

最優秀賞受賞者のコメント

第1部 最優秀賞

山口 直敏 さん

最優秀賞をいただき有難うございました。今回で4度目となります。

機器のトラブルもあり今回は無理だと思っていましたが、なんとか2年連続で受賞できました。来年は1部ではなく2部で受賞したいと思っています。今のところ乳質も牛の状態も良いので、よい成績になるのではないかと考えています。乳質を維持するのは大変ですが、そんなに努力はしていません。それが当たり前になれば努力しなくても良いと思います。

殿堂入りするよう今後も頑張ります。

第2部 最優秀賞

松永 慎也 さん

このような賞を頂き、大変うれしく思います。

今後も安全安心な生乳を出荷するよう努力したいと思います。

有難うございました。



第3部 最優秀賞

竹内 正敏 さん

このような素晴らしい賞を頂き有難うございます。

私は、父から酪農を受け継いで50年になりますが、これまで、このような名誉ある賞を頂いたことはありませんので、大変嬉しく思っています。70歳になり、そろそろ経営をバトンタッチしようと準備していた矢先に賞を頂いたことで、自信をもって、胸を張って、3代目に経営移譲できます。

乳質については、搾乳手順も大事ですが、私はエサで決まると考えています。良い結果が出たので、これからも続けていきたいと思っています。

本日は、わが牧場にとって記憶に残る素晴らしい記念日となりました。有難うございました。

生乳品質共励会は、開催要領に基づき昨年4月から3月までの1年間を対象に、月2回実施した乳質検査の結果を配点基準により採点し24回の合計点数を1,200点満点で評価しています。

それぞれの審査項目と基準値は、脂肪分率3.8%以上・無脂乳固形分率8.7%以上・細菌数3万以下・体細胞数10万以下・氷点-0.520℃以下という、厳しいものになっています。

去年は、8月の猛暑と長引く残暑により搾乳牛に係る負荷が増大し、また飼料高騰による給餌飼料の切り替えなど、生乳品質を維持するのが難しい一年でした。

今年度は、対象となる1,103バルクの平均点は891点(前年比-15点)となりました。生産乳量階層別に3部門(第1部250ℓ未満 長崎県 山口直敏氏、第2部250ℓ以上500ℓ未満 福岡県 松永慎也氏、第3部500ℓ以上 大分県 竹内正敏氏)の3名に最優秀賞・九州生乳販連会長賞が授与され、その栄誉を称えました。

また、副賞として第1部の山口氏には九州農政局局長賞と(一社)Jミルク会長賞、第2部の松永氏には(一社)中央酪農会議会長賞と全国酪農業協同組合連合会会長賞、第3部の竹内氏には、(一社)日本乳業協会会長賞と全国農業協同組合連合会会長賞がそれぞれ贈られました。

生産規模に関係なく上位31名には優秀賞が授与され、優秀賞受賞記念のステンレスプレートが、1,000点以上を獲得された199名の優良賞受賞者には「2022優良生乳生産管理牧場」のステッカーがそれぞれ贈られました。

また、今回は過去3年(令和2~4年度)連続して優秀賞の対象となった連続優秀賞12名に記念のステンレスプレートが贈られました。優秀賞と連続優秀賞の方々は、下記のとおりです。

令和4年度 九州生乳販連生乳品質共励会 優秀賞一覧表

番号	県	氏 名	得点	規模別 ランク	表 彰	番号	県	氏 名	得点	規模別 ランク	表 彰																																																																	
1部	長崎	山 口 直 敏	1,160	1	最優秀賞1	23	福岡	森田 純一郎	1,120	2	優秀賞23																																																																	
2部	福岡	松 永 慎 也	1,187	2	最優秀賞2	24	熊本	(株) 松島牧場	1,119	3	優秀賞24																																																																	
3部	大分	竹 内 正 敏	1,174	3	最優秀賞3	25	佐賀	古 川 直	1,119	1	優秀賞25																																																																	
1	熊本	生 山 牧 場	1,167	2	優秀賞1	26	大分	(有) 中川牧場	1,118	2	優秀賞26																																																																	
2	熊本	平 山 将	1,163	2	優秀賞2	27	長崎	井 上 紀 一	1,118	1	優秀賞27																																																																	
3	大分	竹村 富二男	1,162	2	優秀賞3	28	熊本	内 田 恵 助	1,115	3	優秀賞28																																																																	
4	宮崎	赤 木 大 介	1,162	2	優秀賞4	29	宮崎	黒 木 英 教	1,115	1	優秀賞29																																																																	
5	鹿児島	山 下 栄 一	1,161	3	優秀賞5	30	大分	清 原 里 香	1,114	1	優秀賞30																																																																	
6	長崎	松谷 圭一郎	1,154	1	優秀賞6	31	熊本	深 水 誠 弥	1,114	1	優秀賞31																																																																	
7	長崎	松 本 良 策	1,150	1	優秀賞7	(敬称略) 連続優秀賞 令和2年度～令和4年度 3年連続対象者 <table><tr><th>県</th><th>氏 名</th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th></tr><tr><td>福岡</td><td>松 永 慎 也</td><td>優秀賞15</td><td>優秀賞6</td><td>2部最優秀賞</td></tr><tr><td>福岡</td><td>野 田 貞 治</td><td>優秀賞12</td><td>優秀賞10</td><td>優秀賞14</td></tr><tr><td>長崎</td><td>山 口 直 敏</td><td>優秀賞7</td><td>1部最優秀賞</td><td>1部最優秀賞</td></tr><tr><td>長崎</td><td>松谷 圭一郎</td><td>優秀賞8</td><td>2部最優秀賞</td><td>優秀賞6</td></tr><tr><td>熊本</td><td>(有) 隈部牧場</td><td>優秀賞10</td><td>3部最優秀賞</td><td>優秀賞21</td></tr><tr><td>熊本</td><td>黒 石 哲 博</td><td>優秀賞20</td><td>優秀賞8</td><td>優秀賞12</td></tr><tr><td>熊本</td><td>深 水 誠 弥</td><td>優秀賞17</td><td>優秀賞14</td><td>優秀賞31</td></tr><tr><td>熊本</td><td>村 岡 泰 司</td><td>優秀賞11</td><td>優秀賞7</td><td>優秀賞11</td></tr><tr><td>熊本</td><td>平 山 将</td><td>優秀賞13</td><td>優秀賞17</td><td>優秀賞2</td></tr><tr><td>大分</td><td>竹村 富二男</td><td>優秀賞16</td><td>優秀賞16</td><td>優秀賞3</td></tr><tr><td>宮崎</td><td>黒 木 英 教</td><td>優秀賞5</td><td>優秀賞1</td><td>優秀賞29</td></tr><tr><td>宮崎</td><td>赤 木 大 介</td><td>優秀賞28</td><td>優秀賞3</td><td>優秀賞4</td></tr></table>						県	氏 名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	福岡	松 永 慎 也	優秀賞15	優秀賞6	2部最優秀賞	福岡	野 田 貞 治	優秀賞12	優秀賞10	優秀賞14	長崎	山 口 直 敏	優秀賞7	1部最優秀賞	1部最優秀賞	長崎	松谷 圭一郎	優秀賞8	2部最優秀賞	優秀賞6	熊本	(有) 隈部牧場	優秀賞10	3部最優秀賞	優秀賞21	熊本	黒 石 哲 博	優秀賞20	優秀賞8	優秀賞12	熊本	深 水 誠 弥	優秀賞17	優秀賞14	優秀賞31	熊本	村 岡 泰 司	優秀賞11	優秀賞7	優秀賞11	熊本	平 山 将	優秀賞13	優秀賞17	優秀賞2	大分	竹村 富二男	優秀賞16	優秀賞16	優秀賞3	宮崎	黒 木 英 教	優秀賞5	優秀賞1	優秀賞29	宮崎	赤 木 大 介	優秀賞28	優秀賞3	優秀賞4
県	氏 名	令和2年度	令和3年度	令和4年度																																																																								
福岡	松 永 慎 也	優秀賞15	優秀賞6	2部最優秀賞																																																																								
福岡	野 田 貞 治	優秀賞12	優秀賞10	優秀賞14																																																																								
長崎	山 口 直 敏	優秀賞7	1部最優秀賞	1部最優秀賞																																																																								
長崎	松谷 圭一郎	優秀賞8	2部最優秀賞	優秀賞6																																																																								
熊本	(有) 隈部牧場	優秀賞10	3部最優秀賞	優秀賞21																																																																								
熊本	黒 石 哲 博	優秀賞20	優秀賞8	優秀賞12																																																																								
熊本	深 水 誠 弥	優秀賞17	優秀賞14	優秀賞31																																																																								
熊本	村 岡 泰 司	優秀賞11	優秀賞7	優秀賞11																																																																								
熊本	平 山 将	優秀賞13	優秀賞17	優秀賞2																																																																								
大分	竹村 富二男	優秀賞16	優秀賞16	優秀賞3																																																																								
宮崎	黒 木 英 教	優秀賞5	優秀賞1	優秀賞29																																																																								
宮崎	赤 木 大 介	優秀賞28	優秀賞3	優秀賞4																																																																								
8	熊本	森 田 稔	1,145	2	優秀賞8																																																																							
9	鹿児島	牧 原 浩 一	1,142	3	優秀賞9																																																																							
10	熊本	寺 本 寿 正	1,140	2	優秀賞10																																																																							
11	熊本	村 岡 泰 司	1,140	1	優秀賞11																																																																							
12	熊本	黒 石 哲 博	1,139	3	優秀賞12																																																																							
13	熊本	右 田 祐 樹	1,136	3	優秀賞13																																																																							
14	福岡	野 田 貞 治	1,130	3	優秀賞14																																																																							
15	長崎	林 和 之	1,129	1	優秀賞15																																																																							
16	熊本	神 瀬 幸 和	1,129	1	優秀賞16																																																																							
17	熊本	村 上 茂 之	1,126	2	優秀賞17																																																																							
18	熊本	田 上 直 人	1,126	2	優秀賞18																																																																							
19	大分	(有) 馬場牧場	1,125	2	優秀賞19																																																																							
20	宮崎	樽 見 学	1,124	2	優秀賞20																																																																							
21	熊本	(有) 隈部牧場	1,123	3	優秀賞21																																																																							
22	宮崎	早 田 卓 史	1,121	3	優秀賞22																																																																							

1部:250ℓ未満 2部:250~500ℓ 3部:500ℓ超 (敬称略)

酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和5年6月の生乳出荷戸数は1,082戸で、令和5年3月時点の1,107戸と比較すると25戸の減少となりました。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

4～6月の乳用種雌牛飼養頭数は、23カ月令以下・24カ月令以上・総頭数ともに前年を下回った推移となっています(表1)。

表1 乳用種雌牛飼養頭数 (単位: 頭)

	4月	5月	6月
23カ月令以下	28,684	28,454	28,391
	増減	-575	-650
	前年比	98.0%	97.8%
24カ月令以上	72,008	71,674	71,204
	増減	-2,208	-2,278
	前年比	97.0%	96.9%
総頭数	100,692	100,128	99,595
	増減	-2,783	-2,928
	前年比	97.3%	97.2%

注: Jミルクホームページより

3～5月の出生総頭数は前年を下回って推移しました。また、内訳として、乳用種雌、乳用種雄、交雑種すべてで前年を下回っています(表2)。

表2 出生頭数 (単位: 頭)

	3月	4月	5月	累計(3-5月)
総頭数	3,427	2,286	2,056	7,769
	増減	-182	-550	-1,211
	前年比	95.0%	80.6%	86.5%
うち、乳用種雌	745	473	413	1,631
	増減	-165	-194	-496
	前年比	81.9%	70.9%	76.7%
うち、乳用種雄	350	198	158	706
	増減	-99	-131	-347
	前年比	78.0%	60.2%	67.0%
うち、交雑種	1,584	999	845	3,428
	増減	-180	-303	-701
	前年比	89.8%	76.7%	83.0%

注: Jミルクホームページより

3. 生乳需給

(1) 生乳受託販売数量

新年度に入っても飼料価格の高騰等による極めて厳しい生乳生産環境は続いており、生産抑制の取組もあり、4～6月の生乳受託販売数量は前年を大きく下回っ

て推移しました。また、同期間中の都府県・北海道も前年を下回って推移しており、全国で前年を約5%下回る推移となりました(表3)。

表3 生乳受託販売数量 (単位: t、%)

	4月	5月	6月	累計(4-6月)
九州	49,391	49,569	45,430	144,390
	前年比	94.3%	93.6%	92.8%
都府県	258,227	262,177	244,323	764,728
	前年比	95.3%	94.4%	94.3%
北海道	329,272	345,597	335,107	1,009,976
	前年比	94.7%	95.5%	96.4%
全国	587,500	607,775	579,430	1,774,704
	前年比	94.9%	95.0%	95.5%

注: 中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

注: 公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2) 生乳販売状況

昨年11月からの乳価改定に伴う牛乳・ヨーグルト等の値上げの影響に加え、生乳生産の減少に伴う需給調整により域外飲用が前年を大きく下回った結果、4～6月の飲用向けは前年を下回って推移しました。また、はっ酵乳等向け、クリーム等向け、チーズ向けが比較的堅調に推移する中、脱脂粉乳・バター等向けの削減に努めた結果、脱脂粉乳・バター等向けは前年を大きく下回りました。

一方、全国の4～6月の生乳販売状況は、昨年11月からの値上の影響を受けて飲用向け・はっ酵乳等向けが前年を下回ったのに加え、今年4月からの乳製品向けの値上げの影響によりクリーム等向け、チーズ向けも前年を下回っており、脱脂粉乳・バター等向けを含む各用途の減少と生乳生産の減少とで需給が均衡する状況になってきています(表4)。

表4 用途別販売数量 (単位: t、%)

	用途	4月	5月	6月	累計(4-6月)
九州	飲用(前年比)	33,281 95.1%	35,120 93.6%	33,896 91.1%	102,297 93.2%
	はっ酵乳(前年比)	7,106 99.8%	7,282 100.1%	7,144 99.0%	21,531 99.6%
	脱脂粉乳・バター等(前年比)	6,214 82.1%	4,564 81.5%	2,041 88.7%	12,819 82.9%
	生クリーム(前年比)	2,695 103.4%	2,507 102.2%	2,254 105.2%	7,456 103.5%
	チーズ(前年比)	96 99.7%	96 97.3%	95 100.3%	287 99.1%
全国	飲用(前年比)	243,992 95.3%	260,912 96.1%	259,904 95.1%	764,807 95.5%
	はっ酵乳(前年比)	36,386 94.7%	37,637 95.5%	36,888 95.3%	110,913 95.1%
	脱脂粉乳・バター等(前年比)	161,444 90.7%	164,723 92.2%	142,957 95.9%	469,124 92.8%
	生クリーム(前年比)	107,019 98.4%	106,535 96.9%	104,290 96.9%	317,842 97.4%
	チーズ(前年比)	38,659 103.0%	37,967 94.9%	35,391 93.3%	112,017 97.0%

注: 中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

(12ページへ続く)

4. 今後の生乳需給について

極めて厳しい生乳生産環境が続く中、令和5年8月分から飲用向け・はっ酵乳等向け乳価の再値上げが決まっており、生乳生産環境が少しでも改善されることが期待されます。

一方で、今後は値上げによる需要の減少が懸念されます。価格改定による影響を最小限に止め、手取乳価を向上するためには需要の維持・拡大が不可欠となります。本会としては、今後も理解醸成・消費拡大に取り組み、需要の維持に努め、生産者の安定的な生乳生産環境が確保されるよう取り組みます。

8月以降 牛乳・ヨーグルトの再値上げ!

酪農理解醸成・牛乳消費拡大に取り組みましょう!

令和4年11月1日からの飲用・はっ酵向け10円の値上げ、さらには、令和5年4月1日からのクリーム、脱粉・バター、チーズ向け10円の値上げ、しかし、これらの値上げでは酪農家の生産費増高分を十分に補えないため、令和5年8月1日から、再度飲用・はっ酵向け10円の値上げとなりました。

今後、スーパー・量販店（一般市場）、レストラン・ホテル（業務用）等で使用される牛乳、ヨーグルト、クリーム・バター・チーズの需要量がどう動くかが生乳需給の鍵を握ります。

今年の5月に、新型コロナの感染症法上の位置づけが「5類」になり、国内経済・インバウンド需要の回復が期待されますが、油断はできません。

牛乳、ヨーグルト、乳製品が値上げになっても、生活者・消費者の方々に飲んで・食べてもらうことが大切です。

国・Jミルクが立ち上げた「牛乳でスマイルプロジェクト」活動と共に、生産者・乳業者が一致団結し、牛乳の理解醸成・消費拡大へ自ら取り組みましょう。



加工原料乳生産者経営安定対策事業に係るお知らせ

1. 独立行政法人農畜産業振興機構より、令和4年度平均取引価格及び令和5年度補填基準価格等について通知がありましたのでお知らせします。

令和4年度においては、平均取引価格(①)が補填基準価格(③)を下回った為、本事業実施要綱第4の6の(8)の規定に基づき、交付対象者に対して補填金が交付されます。交付時期は、本年11月頃を予定しておりますが、正式なご案内は所属組合等を通じて別途ご連絡いたします。

2. 令和5年6月1日開催の令和5年度第2回理事会において決定した、今年度の生産者拠出金単価：加工原料乳1kgあたり0.20円については、独立行政法人農畜産業振興機構に申請し承認されましたので通知します。

① 令和4年度平均取引価格	81.25円/kg
② 令和5年度補填基準価格	81.61円/kg

参考)

③ 令和4年度補填基準価格	82.55円/kg
④ 令和4年度補填金単価	1.04円/kg

* ④ = (③ - ①) × 8/10 (1銭未満四捨五入)

* 上記価格、単価は加工原料乳1kgあたり。

令和5年度生産者拠出金単価(加工原料乳1kgあたり)	0.20円/kg
----------------------------	----------

令和5年度販売状況について

用途別生乳販売実績

(単位 数量:t、前年比:%、単価:円/kg)

用 途		4月			5月			6月			第1四半期計		
		数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価
飲用等向け	域内飲用向け	23,493	97.8	124.580	24,117	96.3	125.041	24,193	96.9	125.423	71,802	97.0	125.018
	学校給食向け	2,871	99.2		4,115	106.6		4,694	101.5		11,679	102.6	
	域外飲用向け	7,159	85.5		7,133	80.3		5,274	66.8		19,567	77.8	
	飲用牛乳等向け計	33,523	95.0		35,365	93.6		34,161	91.2		103,048	93.2	
	はっ酵乳等向け	7,106	99.8		7,282	100.1		7,144	99.0		21,531	99.6	
	飲用等向け合計	40,628	95.8		42,646	94.7		41,305	92.4		124,580	94.3	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	6,315	82.7	89.240	4,665	81.7	89.875	2,082	88.8	92.182	13,061	83.3	90.091
	クリーム等向け	2,719	103.5		2,534	102.1		2,290	105.2		7,543	103.5	
	チーズ向け	96	99.7		96	97.3		95	100.3		287	99.1	
	特定乳製品向け計	9,130	88.1		7,294	88.0		4,467	96.8		20,891	89.8	
販売乳量合計		49,758	94.3	118.096	49,940	93.6	119.905	45,772	92.8	122.179	145,470	93.6	120.002

支払乳代

(単位 金額:千円、単価:円/kg)

項 目	4月		5月		6月		第1四半期計	
	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価
基本乳代①	5,876,229	118.096	5,988,103	119.905	5,592,375	122.179	17,456,707	120.002
脂肪分加算金	44,526	0.895	41,768	0.836	35,429	0.774	121,723	0.837
無脂固形分加算金	51,610	1.037	50,493	1.011	44,824	0.979	146,926	1.010
成分加算金計②	96,135	1.932	92,261	1.847	80,253	1.753	268,650	1.847
季節別調整率③	94%	—	94%	—	100%	—	—	—
季節別調整金	-352,574	-7.086	-359,286	-7.194	0	0.000	-711,860	-4.894
調整後乳代④=①×③	5,523,655	111.010	5,628,817	112.711	5,592,375	122.179	16,744,847	115.108
販売手数料	17,917	0.360	18,241	0.365	17,018	0.372	53,176	0.366
生乳検査料	5,971	0.120	5,993	0.120	5,493	0.120	17,456	0.120
送乳経費	201,880	4.057	203,132	4.067	181,108	3.957	586,119	4.029
需要者負担額(運賃補填)	-1,891	-0.038	-2,432	-0.049	-2,571	-0.056	-6,893	-0.047
C S ・ 冷 却 費	50,560	1.016	50,256	1.006	51,617	1.128	152,433	1.048
集乳経費	122,308	2.458	122,515	2.453	112,343	2.454	357,166	2.455
プール費用⑤	396,745	7.973	397,705	7.964	365,007	7.974	1,159,457	7.970
差引乳価②+④-⑤	5,223,045	104.969	5,323,373	106.595	5,307,621	115.958	15,854,040	108.985

令和4年度乳用牛繁殖改善事業の実績について

令和2年度から引き続き、生産者に対しPAGs(乳汁中妊娠関連糖蛋白質)検査を実施し、繁殖改善に取り組む生産者に乳用牛繁殖改善事業を実施しました。

令和4年度は、本会検査所および会員施設にPAGs検査を依頼した生産者に対し、1検体あたり4月～5月、12月～3月は300円(税抜)、6月～11月は400円(税抜)を助成し、補助対象検体数は5,228本(前年比88.7%)、助成総額は1,835千円となりました。

PAGs検査を利用することによって、乳汁を採取するだけで人工授精後28日目以降の牛の妊娠と空胎の確認、適切な再授精への活用が可能となるメリットが挙げられます。繁殖成績の向上のため、ぜひご利用ください。

(本)

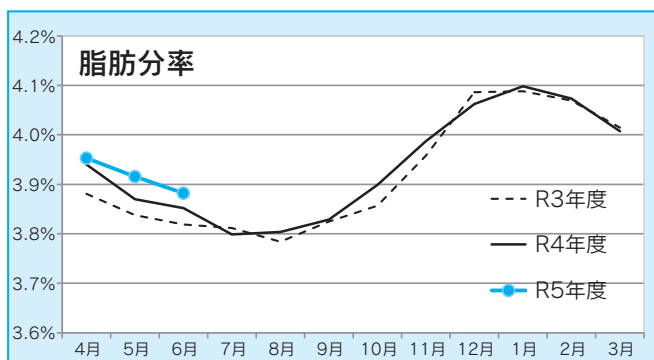
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
検体数	526	500	674	425	410	353	301	505	374	308	398	454	5,228	88.7%

令和5年度会員別生乳受託販売数量

(単位: t、%)

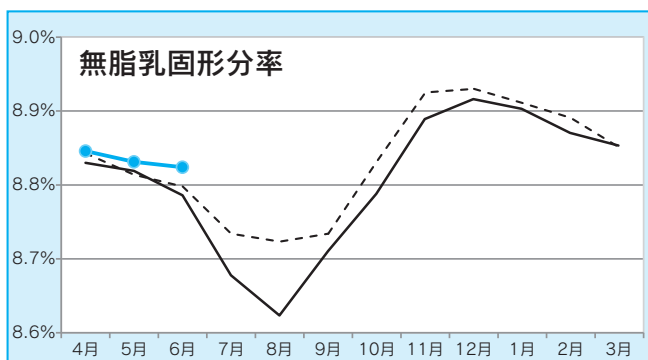
	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合 計	
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比
4月	5,341	86.4	1,110	88.5	2,816	91.8	22,327	95.8	5,977	97.7	6,057	94.0	6,131	95.9	49,758	94.3
5月	5,363	86.1	1,088	85.7	2,827	90.4	22,453	94.7	5,992	97.3	6,108	94.0	6,109	96.1	49,940	93.6
6月	4,935	85.8	957	82.3	2,583	90.5	20,759	93.8	5,479	96.9	5,646	92.7	5,412	95.5	45,772	92.8
合 計	15,639	86.1	3,154	85.6	8,226	90.9	65,539	94.8	17,449	97.3	17,812	93.6	17,652	95.8	145,470	93.6

令和5年度 月別受託生乳検査成績



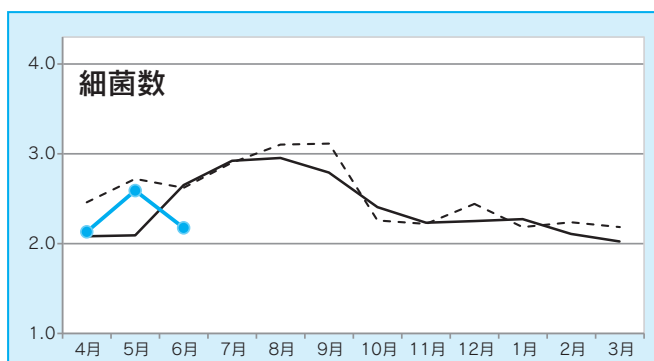
R3年度	3.88	3.84	3.82	3.81	3.78	3.83	3.86	3.96	4.09	4.09	4.07	4.01
R4年度	3.94	3.87	3.85	3.80	3.80	3.83	3.90	3.99	4.06	4.10	4.07	4.01
R5年度	3.95	3.92	3.88									

(単位: %)



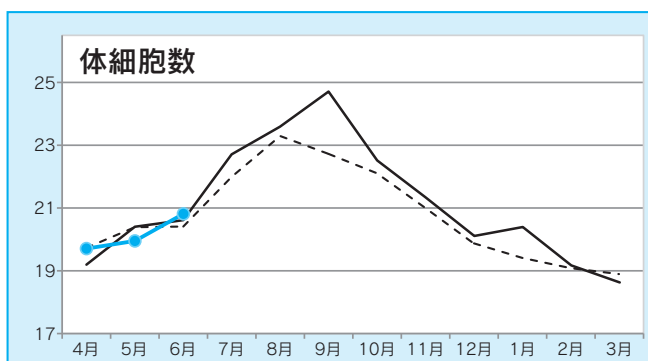
R3年度	8.84	8.81	8.80	8.73	8.72	8.73	8.83	8.93	8.93	8.91	8.89	8.85
R4年度	8.83	8.82	8.79	8.68	8.62	8.71	8.79	8.89	8.92	8.90	8.87	8.85
R5年度	8.85	8.83	8.82									

(単位: %)



R3年度	2.5	2.7	2.6	2.9	3.1	3.1	2.3	2.2	2.4	2.2	2.2	2.2
R4年度	2.1	2.1	2.7	2.9	3.0	2.8	2.4	2.2	2.2	2.3	2.1	2.0
R5年度	2.1	2.6	2.2									

(単位: 万/ml)



R3年度	19.7	20.4	20.4	22.0	23.3	22.7	22.1	21.0	19.9	19.4	19.1	18.9
R4年度	19.2	20.4	20.6	22.7	23.6	24.7	22.5	21.3	20.4	20.4	19.2	18.6
R5年度	19.7	19.9	20.8									

(単位: 万/ml)

人事異動

氏 名	新 任	旧 任	発 令 日
塩 崎 洋 己	検査部 部長待遇	—	令和5年6月1日
古 賀 一 郎	検査部 相談役	検査部 部長待遇	令和5年6月1日

牛群検定における脂肪酸組成のデータを活用しましょう！

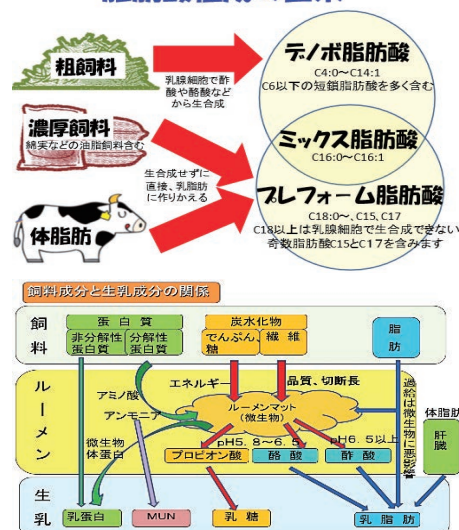
1. 個体牛の乳中の脂肪酸組成について

牛群検定における新たな飼養管理の指標となる3種類の乳成分データ「脂肪酸組成」を提供しています。脂肪酸組成データは、飼料由来別にモニタリングすることで、より精密・適切な給餌の管理ができます。主に粗飼料から作られる乳脂肪はデノボ脂肪酸と呼ばれ、乳腺細胞で生合成されて乳脂肪になりますが、濃厚飼料や体脂肪が由来での乳脂肪はプレフォーム脂肪酸と呼ばれ乳腺細胞では生合成できません。

簡単に説明すると、ルーメンで生成されるデノボ脂肪酸の過多は「給餌とルーメン状態」が影響し、プレフォーム脂肪酸の過多は「濃厚給餌と代謝」（体脂肪動員）が影響します。

つきましては、右の図のとおり乳中の脂肪酸組成の供給源を解析することによって、牛・ルーメンの健康状態をモニタリングすることができます。

脂肪酸組成の由来



2. 脂肪酸組成等の指標値について

脂肪酸中(%)	泌乳初期(分娩後60日以内)	泌乳中期以降(分娩後60日以上)
デノボFA	>22%以上	>28%以上
プレフォームFA	<50%以下	<40%以下

乳中(%)	全乳期
デノボMilk	>0.90%以上

3. 脂肪酸組成の活用について

脂肪酸組成等	↑ 増加	↓ 減少	評価対象
デノボFA	粗飼料、栄養管理が良好	粗飼料(繊維)、乾物摂取量の低下、デンプン・糖の分解不足、油脂飼料の過剰給与	栄養・飼料管理設計
デノボMilk	ルーメン内微生物が活発で摂取量、消化率ともに良好な健康状態	油脂飼料の多給(pH低下)により、分解菌の成長速度が阻害され、繊維質飼料の摂取量、消化率の低下	ルーメン発酵の評価
プレフォームFA	栄養不足による体脂肪動員(削瘦)の発生、飼料摂取の変化(増加)油脂飼料の多給	飼料摂取量の減少、エネルギー、油脂飼料不足	体脂肪、油脂飼料由来

管理のポイント

- ポイント1** 泌乳初期においては、分娩後の急激な乳量増加により、乾物摂取量が低下しやすく体脂肪動員が起こるため、「デノボFAは低下」「プレフォームFA上昇」になりやすい時期なので注意が必要となります。
- ポイント2** 暑熱時期である7～8月に「デノボFAが低下」、「プレフォームFAが高い」傾向、そして乳脂率は下がる傾向にあります。また、乳中の脂肪酸組成の供給源を解析することにより、牛・ルーメンの健康状態をモニタリングすることができます。

お問い合わせ

●脂肪酸組成の検査結果についてご不明な点がございましたら、以下の連絡先へお問い合わせください。
(電話)096-388-7117 (mail)kensa@kyuhanren.jp 九州生乳販売農業協同組合連合会 生乳検査所

「ハッピーミルクフェスタ in 鹿児島2023」開催！

6月10日（土）、消費者へ日頃の牛乳愛飲の感謝を伝えるとともに、昨秋以降牛乳・乳製品の値上げがあり、さらに今年8月にも牛乳の再値上げが予定されている中、これからも変わりなく牛乳をご愛飲いただけるよう生活者に呼びかけることを目的とし、鹿児島県酪協、鹿児島県酪農青壮年女性会議の皆様のご協力を得て、鹿児島中央駅アミュ広場で開催しました。

イベントフロアでは、牛乳の無料試飲・牛乳と親和性の高い商品の試飲・試食や、模擬牛を使用した搾乳・哺乳体験、飼料展示への参加で参加賞がもらえる「酪農体験スタンプラリー」等を展開しました。

また、イベント開催中は会場周辺でリーフレット・チラシ・LL牛乳・フルグラ小袋の無償配布を行い、用意した2,000セットは好評のうちにすべて配り終えることができました。



写真左：左より ステージMC 坂元彩乃さん、九販連 稗島常務、鹿児島県酪協 轟木前組合長

写真右：左より 二反田登志子さん(湧水町)、笹平康子さん(曽於市)、横山美樹さん(東串良町)、溝口剛さん(曽於市)

実施日		令和5年6月10日(土)
会 場		鹿児島中央駅 アミュ広場
実施内容・実績	ステージイベント	愛飲感謝トークショー(2回)、酪農・牛乳クイズ大会(2回)、アイドルステージショー(2回)、チアダンスショー(1回)
	フロアイベント	酪農スタンプラリー(模擬搾乳・模擬哺乳・飼料展示)、パネル展示(酪農家の1日／九州産牛乳パック紹介、牛の体の仕組み)、ぬり絵、牛の着ぐるみ回遊、風船配布(600個)、#牛乳ヒゲチャレンジコーナー
	牛乳無料試飲	成分無調整牛乳の試飲・飲み比べ(鹿児島県酪農乳業㈱・南日本酪農協同㈱協力)
	食品企業とのコラボレーション	①無料試飲・試食(カルビー㈱：フルーツグラノーラ＋牛乳1,300食、カルピス㈱：牛乳割りカルピス750杯、味の素AGF㈱：アイスカフェオレ800杯) ②レシピ展示(ハウス食品㈱：クリーミーうまかつちゃん他 全5種)
	中央酪農会議 MILK JAPAN	①MILK JAPANグッズ・リーフレット・マスク配布等(合計654部) ②動画投影(お笑い芸人「ミルクボーイ」牛乳ネタ、酪農教育ファーム推進委員会「牛にゆうってこんなにすこい!!」)
	キッチンカー	奄美ジェラート(奄美Café)
	サンプリング	リーフレット・チラシ・LL牛乳・フルグラ小袋 2,000セット



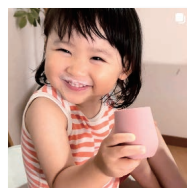
#牛乳ヒゲチャレンジ2023を実施しました！

牛乳月間の6月1日～30日に、牛乳を飲んでできた牛乳ヒゲの写真を撮り「#牛乳ヒゲチャレンジ2023」のハッシュタグをつけてInstagramに投稿した方の中から抽選で30名にLL牛乳1ケース（200ml×24本）をプレゼントするという内容のキャンペーン「#牛乳ヒゲチャレンジ2023」を実施しました。

個性あふれる牛乳ヒゲ姿の写真が271件投稿され、キャンペーンを楽しみながら牛乳を飲んでいる様子が見られました。

投稿の中には、牛乳を飲む姿の写真とともに酪農家や牛乳を応援するコメントがあり、牛乳を愛飲する様子とともに「牛乳大好き」「いつも美味しい牛乳をありがとうございます」といった声を聞くことができました。

今後も九州の酪農・牛乳に対する酪農理解醸成と牛乳消費拡大のための様々な施策を展開してまいります。今回のキャンペーンの内容、投稿写真については本会Instagramアカウントやハッシュタグ等から閲覧することが出来ますので、こちらもぜひご覧ください。



＼ 九販連公式サイト・SNSはこちら！ ／

公式サイト	https://kyuhanren.com
Twitter	https://twitter.com/love_milk_club
Facebook	https://www.facebook.com/kyuhanren
Instagram	https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/



新聞広告を掲載しました check!

『牛乳は、いま。』

コロナ禍はようやく収束の方向にあるものの、飼料高騰や牛乳消費の低下等、酪農情勢がかつてないほど厳しい状況に直面している中、こうした酪農が直面する「いま」を伝えるとともに、このような「いま」だからこそ牛乳を飲んで欲しいという思いを生産者の言葉とともに発信する新聞広告を掲出しています。新聞広告第1弾【7月29日（土）掲出】のモデルは、令和4年度生乳品質共励会最優秀賞受賞者の長崎県諫早市・山口牧場さん、第2弾【8月26日（土）掲出予定】は福岡県糸島市・松永牧場さん、大分県由布市・竹内牧場さんです。



牛乳は、いま。たいへんな状況です。

ロシアのウクライナ侵攻や円安など国際情勢による輸入飼料の高騰。それに伴う飼料代の大幅な値上がりで酪農の現場を直撃し、経営環境はかつてないほど厳しく、やむなく廃業に追い込まれる酪農家もいます。こうした状況を受け、昨年から今年にかけて牛乳・乳製品の価格が値上がりしています。酪農家1人1人では乗り越えられない大きな壁があったのです。

牛乳は、いまこそ、飲んでほしい。

そんな中でも品質の高い美味しい牛乳を搾るために日々努力を続けるたくさんの酪農家があります。長崎県諫早市の山口牧場もそのひとつ。餌やりの機械化で作業効率をアップさせ、乳牛の世話にかかる時間を増やしました。牛の寝床を常に清潔に保ちながら乳房炎などの病気を防ぎ、健康状態をデータやカメラで毎日チェックして九州でトップクラスの質の高い牛乳を搾り続けています。「消費者の方にメッセージを。」というお願いをしたら酪農家、山口大貴さんは照れながら酪農への愛情を一言で伝えてくれました。「牛って、ほんとうに、可愛いんですよ」

大変な状況の中、酪農家たちの思いはそれぞれ、でも、願いは同じです。

MILKEEP 牛乳を、まもろう。

九州の空と風と大地から。九州 Love Milk Club www.milkeemiku.jp

生乳生産者需要確保事業 (独)農畜産業振興機構 (一社)中央酪農会議 後援



◆7月29日（土）掲載 令和4年度生乳品質共励会第1部最優秀賞：長崎県諫早市・山口牧場さん

（掲載済みの新聞広告は、本会公式サイト（17ページ参照）から閲覧できます）

R5年度牛乳・バター利用拡大推進運動について

九州産生乳の安定的な需要維持・拡大を目的として、生活者に「九州産」牛乳・乳製品利用のメリットを実感していただけるよう、今年度も牛乳・バター利用拡大推進運動を実施いたします。

生乳出荷戸数にLL牛乳(24本入り)5c/s・バター(30個入り)1c/sを乗じて総目標数量※とし、九州全体で達成に向けて取り組むこととしました。運動期間は令和5年12月～令和6年3月としています(詳細な運動期間と申込方法は各会員にご確認ください)。皆様の積極的な運動へのご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

※実際の目標数量は案内送付時点の直近戸数で計算いたします。



【熊本県酪連】



【九州乳業㈱】



【南日本酪農㈱】

- ・商 品 名:九州生まれの牛乳。
- ・種 類 別:牛乳(常温保存可能品)
- ・原材料名:生乳100%
- ・内 容 量:200ml
- ・殺 菌:【熊本県酪連・九州乳業㈱】140℃ 3秒間
【南日本酪農㈱】140℃ 2秒間
- ・1ケース入り数:24本
- ・保存方法:常温を超えない温度で保存
- ・賞味期限:90日間



【㈱弘乳舎】



【九州乳業㈱】



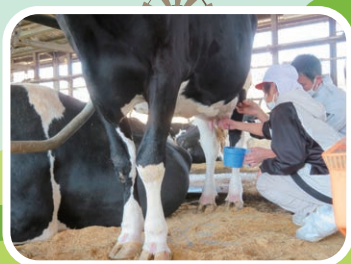
【南日本酪農㈱】

- ・商 品 名:九州生まれのバター
- ・種 類 別:バター
- ・原材料名:生乳・食塩
- ・内 容 量:【㈱弘乳舎・南日本酪農㈱】200g
【九州乳業㈱】225g
- ・中箱入数:【㈱弘乳舎・南日本酪農㈱】200g×6個
【九州乳業㈱】225g×6個
- ・1ケース入り数:中箱×5個
- ・保存方法:【㈱弘乳舎】-18℃以下で冷凍保存
【九州乳業㈱・南日本酪農㈱】10℃以下で冷蔵保存
- ・賞味期限:【㈱弘乳舎】冷凍で3年
【九州乳業㈱・南日本酪農㈱】冷蔵で6カ月

令和5年度 酪農教育ファーム 認証牧場・ファシリテーターを募集します!

酪農教育ファームとは、全国の酪農家および関係者が牧場や学校などで主に教育関係者と協力しながら行う酪農理解醸成活動です。

令和5年度現在九州では、酪農体験等を通して、食への関心を高め、酪農の仕事を理解してもらい、いのちの大切さを実感してもらうために31戸の認証牧場と57名のファシリテーターが活動を行っています。



活動内容

「子どもたちの食やしごと、いのちの学びを支援する」ことを目的として、認証を受けた酪農家が牧場を提供し、学校や教育現場と連携して酪農体験学習会を実施しています。また、学校が酪農体験を実施した場合、年に4件ほど学校に対して体験に係る費用を1/2助成しています。

申請方法

認証牧場・ファシリテーター共に指定の申請書にご記入のうえ下記連絡先までご連絡下さい。申請書は(<http://www.dairy.co.jp/edf/>)よりダウンロードできます。

申込締切

令和5年10月31日(火)

お問い合わせ

九州生乳販売農業協同組合連合会 総務部 蒲原
TEL 092-432-6021 / FAX 092-432-6022

九州生乳販売農業協同組合連合会